

研 究 分 野	資源評価	部名	資源開発部
研 究 課 題 名	重要魚類モニタリング調査（底生魚魚類資源動向調査）		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H19～H23		
担 当	大水 理晴		
協力・分担関係	(独)東北区水産研究所八戸支所		

〈目的〉

本県周辺海域の重要水産資源である底魚類の分布状況や発生状況を継続的・定期的にモニタリングすることにより、精度の高い漁況予測と資源診断に必要な情報を収集、資源の安定的な確保に資する。

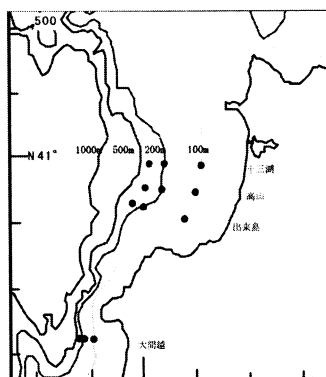
〈試験研究方法〉

日本海、津軽海峡及び太平洋海域において 34 ヶ所の調査点を設定し、青鵬丸（青森県水産総合研究センター試験船 65 トン 1000PS）により、2007 年 4 月～2008 年 1 月にかけて網口約 2 m のオッタートロールを使用して引き網時間約 30 分の調査を実施した。特に太平洋での 10 月～11 月は「ヤリイカ漁況予測」に、日本海での 11 月～翌年 1 月はハタハタ資源状況把握に用いた。

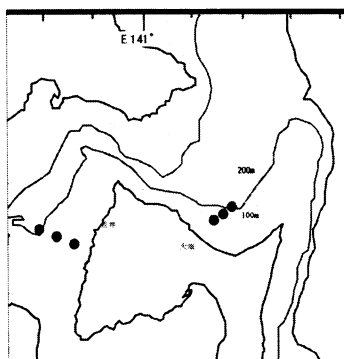
曳網面積は実測値に近づけるため 0.01 ㎞²当たりの現存量とした。

○調査地点図

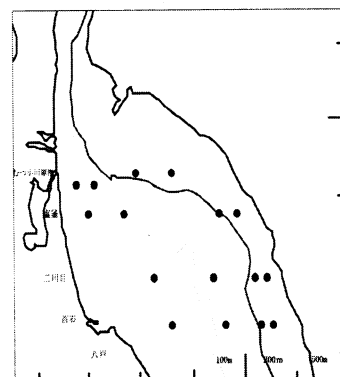
下図で右から日本海、津軽海峡、太平洋調査地点図



重要魚類資源モニタリング調査に係るオッタートロール調査予定海域図（日本海）
調査水深は浅い方より、三陸、奥田、出雲島、大間崎は 100・200・300m



重要魚類資源モニタリング調査に係るオッタートロール調査予定海域図（津軽海峡）
調査水深は浅い方より、大間崎、大間は 100・150・200m



重要魚類資源モニタリング調査に係るオッタートロール調査予定海域図（太平洋）
調査水深は浅い方より、八戸沖、青森沖、二戸沖、八戸沖は 100・200・300m

〈主要成果の具体的なデータ〉

○2007 年度実施調査地点

オッタートロール調査・・・全 64 点

日本海・・・ 5 月・11 点、11 月・14 点、12 月・1 点、1 月・5 点 計 31 点

日本海：11 月・1 月、ハタハタ分布調査

津軽海峡・・・ 7 月・7 点、9 月・8 点 計 15 点

津軽海峡：9 月・イカナゴ成魚分布調査

太平洋・・・ 7 月・11 点、10 月・7 点 計 18 点

太平洋：10 月・ヤリイカ未成体分布調査

表1 オッタートロール調査結果

[illegible]

○ ヤリイカ未成体分布調査結果（太平洋 10 月）

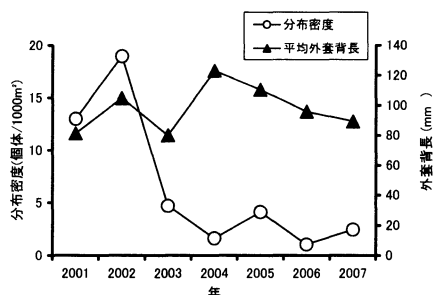


図1 ヤリイカ未成体の分布と外套背長の経年変化

○ ハタハタ分布調査結果（日本海11月、12月、1月）

表2 ハタハタの分布状況

調査年月日	調査場所	水深(m)	ハタハタ個体数(尾)		
			オス	メス	合計
2007.11.7	つがる市出来島沖	106	0	0	0
		202	1	0	1
		280	88	23	111
2007.11.9	深浦町岩崎沖	120	0	0	0
		144	0	0	0
2007.11.14	つがる市高山沖	200	0	0	0
		287	44	7	51
合計			133	30	163

調査船舶：試験船青鵬丸、曳網時間：17～42分

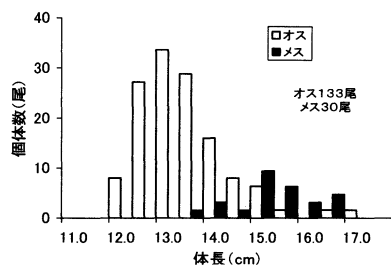


図2 採集されたハタハタの雌雄別体長

〈今後の問題点〉

(2007. 11. 7、11. 9、11. 14)

魚体の調査項目について検討する必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同様

〈結果の発表・活用状況等〉

平成 19 年度日本海漁業者協議会でハタハタ調査結果について発表。

平成 19 年度東北ブロック底魚研究連絡会議にてスケトウダラとマダラの結果を報告。

新深浦町漁協岩崎支所・鰺ヶ沢漁業協同組合でのヤリイカ・ハタハタ勉強会で発表。

日本海地区の漁業協同組合にヤリイカ分布調査結果、漁況予測を発表。